

防災通信

— 直下型地震への備え その7
地震 その時の行動 —

松原第6町会 2023年 6月 1日

松原第6町会防災アドバイザー 黒澤

地震災害の特徴は、「揺れは一瞬の出来事」です。問題はその後にあります。そのため心構え・準備さえしておけば、地震は決して怖いものじゃない、といわれています。今回は、「地震」その時の行動についての推奨行動と注意点をお伝えします。

【家の中では】

① まず、自分の身を守る

窓ガラスの破片が落ちてくる、食器が飛んでくる、家具が転倒するなど、家が倒壊しなくても危険はいっぱいです。机の下などに身を隠して、最優先で自分の身を守りましょう。



② 火の始末は揺れが収まってから

行動を起こすのは、揺れが収まってからにします。カスレンジ、ストーブ、アイロンなど火元を確認し、あわてずに消します。周囲に燃え移っていたら落ち着いて初期消火をします。初期消火は、消火器や水、空気遮断などの方法があります。



③ 出口を確保

部屋の戸や窓、玄関などを開けて出口を確保します。建物が歪み建物内に閉じ込められる可能性があります。また余震で扉が閉じる可能性もあるので、出口を確保したら、扉止めの工夫をします。慌てて外に出ると屋根部材が落ちてくることもあるので注意します。



【外出先では】

ビル街・繁華街

看板やガラスの破片が落ちてくるので、かばんなどで頭を守り公園などの広い場所、あるいは安全なビル内に避難します。



住宅街

ブロック塀の倒壊や自動販売機の転倒に注意します。補強されていないブロック塀は震度5でも倒壊します。



後続車に注意して減速→道の左側や空き地・大規模駐車場に停車→エンジン停止して、揺れが収まるのを待ちます。

ラジオなどで情報を収集し、車を離れる避難をするかどうか自主判断します。近隣のドライバーと相談するのも手です。電話連絡は、恐らく通話制限がかかるので通じないでしょう。

やむを得ず道路上に車を置いて退避する場合は、

- (1) 窓を閉め、エンジンを切ります
 - (2) **貴重品と車検証**を持って避難します
 - (3) 車のキーだけを付けたままor分かりやすい場所に残し、ドアロックをせずに車から離れます
- 車の所有者の連絡先を記したメモを残せばベストです。名刺でも構いません。緊急・救援車両の通行の邪魔になる車は破損も前提に排除して可、と法的に認められています。放置した車が盗難に遭う恐れよりも、ご自身の命を護ることを優先してください。なお、**軽自動車は名義変更が容易に為されるため、車検証の持ち出しは必須**です。



電車・バスに乗車中

つり革や手すりにつかまり、急停車の衝撃から身を守る姿勢をとりま揺れが収まったら、車内放送や乗務員の指示に従います。

電車：電車が止まって、慌てて線路に降りることは止めましょう。

架線からパンタグラフで電気を得る路線の場合、通常は線路に触れて感電はしません。

ただし、地下鉄や一部地上路線には線路の隣に地表架線がある路線があります。

むやみに線路に降りると地表架線に触れ、感電する可能性があります。

電圧は600Vもしくは750Vで、感電したら命を落とすレベルです。

また、新たらしい様式の電車もでてきており、架線からの給電の方式など説明しきれません。

パンタグラフ方式の路線でも、架線が切れて線路に接している可能性があり、

その場合は線路に通電しているので、感電の恐れがあります。

地震の揺れでは被害も受けず助かったのです、感電で命を落とさないようにしましょう。

バス：バスが止まって、慌てて道路に降りることは止めましょう。

地震の揺れでコントロールを失った暴走車が後ろから、前から突っ込んでくるかもしれません。

地震の揺れでは被害も受けず助かったのです、交通事故で命を落とさないようにしましょう。



エレベーターの中

揺れを感じたら、すべての階の行先ボタンを押し、最初に止まった階で降ります。

閉じ込められたら、インターホンで連絡します。

エレベーターに閉じ込められてしまったとき、絶対にやってはいけないことが2つあります。

- (1) ドアを無理やり開ける
- (2) エレベーターの天井から脱出しようとする

学校やオフィスで

固定していない棚やキャビネット、コピー機などはあらぬ方向へ吹っ飛びます。

【家の中では】の①と同様に、まずは安全な場所に身を隠しましょう。

